

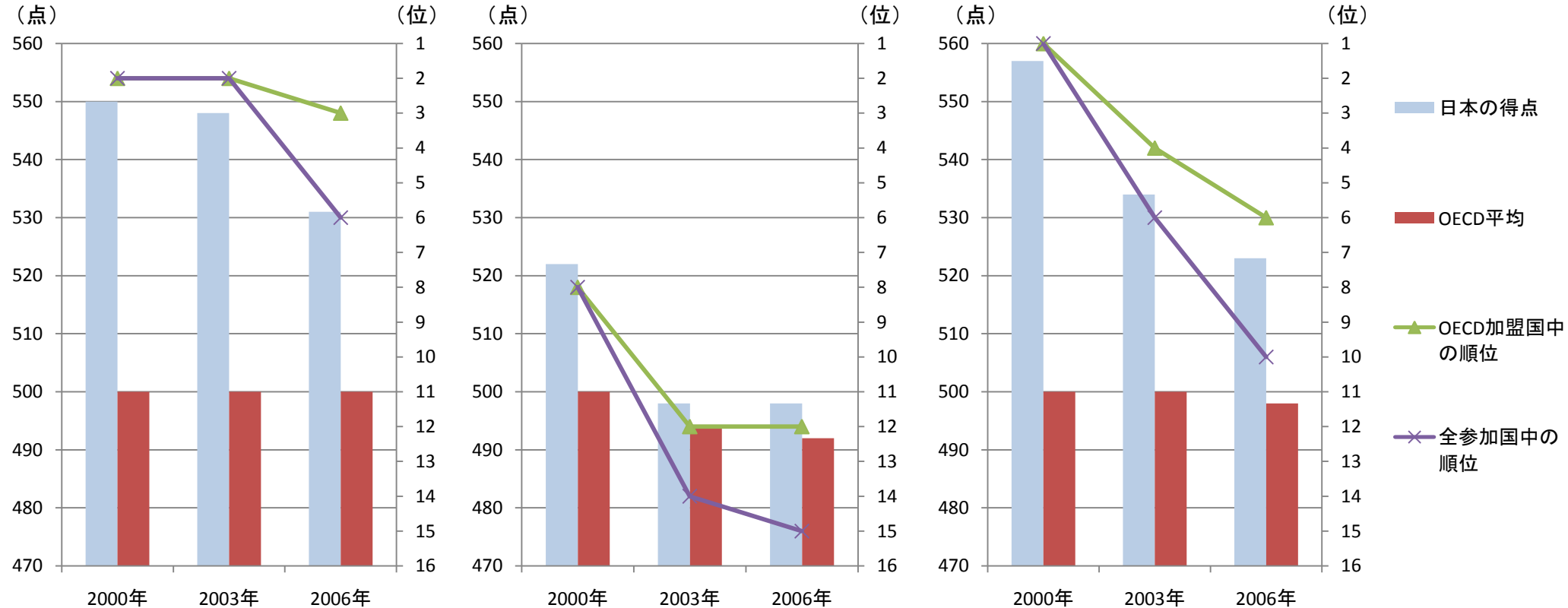
OECD生徒の学習到達度調査(PISA)結果

○ 学習到達度を国際的に比較して見ると、日本の順位は年々低下傾向にある。

科学的リテラシー

読解力

数学的リテラシー



(資料出所) 文部科学省「PISA(OECD生徒の学習到達度調査)」2006年調査より作成。

※PISA調査では、義務教育修了段階の15歳児が持っている知識や技能を、実生活の様々な場面で直面する課題にどの程度活用できるかどうかを評価。思考プロセスの習得、概念の理解、及び様々な状況でそれらを生かす力を重視。

※2006年調査には、57か国・地域(OECD加盟30か国、非加盟27か国・地域)から約40万人の15歳児が参加。なお、2000年調査には32か国(OECD加盟28か国、非加盟4か国)が、2003年調査には41か国・地域(OECD加盟30か国、非加盟11か国・地域)が参加。

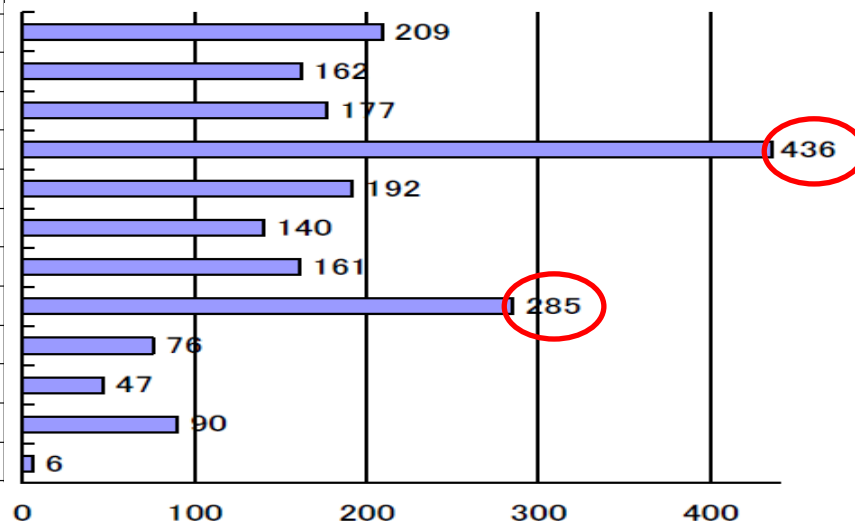
大学・大学院への企業の期待

○ 大学・大学院に対して、文系には「知識や情報を集めて自分の考えを導き出す訓練をすること」、理系には「専門分野の知識を学生にしっかり身に付けさせること」などを企業は期待している。

大学・大学院への期待(文系)

回答	企業数
1. 専門分野の知識を学生にしっかり身に付けさせること	209
2. 教養教育(リベラル・アーツ)を通じて学生の知識の世界を広げること	162
3. 専門分野に関連する他領域の基礎知識も身に付けさせること	177
4. 知識や情報を集めて自分の考えを導き出す訓練をすること	436
5. チームを組んで特定の課題に取り組む経験をさせること	192
6. ディベート、プレゼンテーションの訓練を行うこと	140
7. 国際コミュニケーション能力、異文化理解能力を高めること	161
8. 理論に加えて、実社会とのつながりを意識した教育を行うこと	285
9. 実践重視の実務に役立つ教育を行うこと	76
10. 専門知識を学ぶ目的を理解させるためのプログラムをもつこと	47
11. 職業観醸成につながるプログラムをもつこと	90
12. その他	6

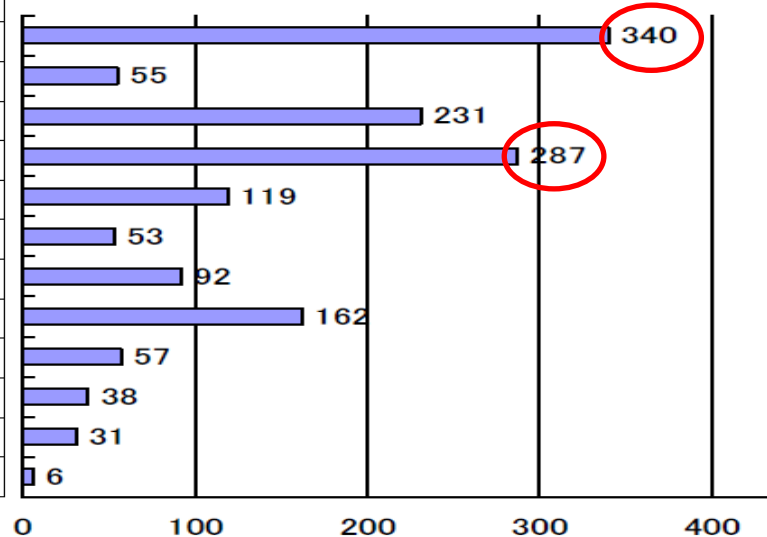
※事務系人材を採用する立場から、大学・大学院(文系学部、学科、専攻)に対して人材育成の点で何を期待するか、684社に質問(3つまで選択)



大学・大学院への期待(理系)

回答	企業数
1. 専門分野の知識を学生にしっかり身に付けさせること	340
2. 教養教育(リベラル・アーツ)を通じて学生の知識の世界を広げること	55
3. 専門分野に関連する他領域の基礎知識も身に付けさせること	231
4. 知識や情報を集めて自分の考えを導き出す訓練をすること	287
5. チームを組んで特定の課題に取り組む経験をさせること	119
6. ディベート、プレゼンテーションの訓練を行うこと	53
7. 国際コミュニケーション能力、異文化理解能力を高めること	92
8. 理論に加えて、実社会とのつながりを意識した教育を行うこと	162
9. 実践重視の実務に役立つ教育を行うこと	57
10. 専門知識を学ぶ目的を理解させるためのプログラムをもつこと	38
11. 職業観醸成につながるプログラムをもつこと	31
12. その他	6

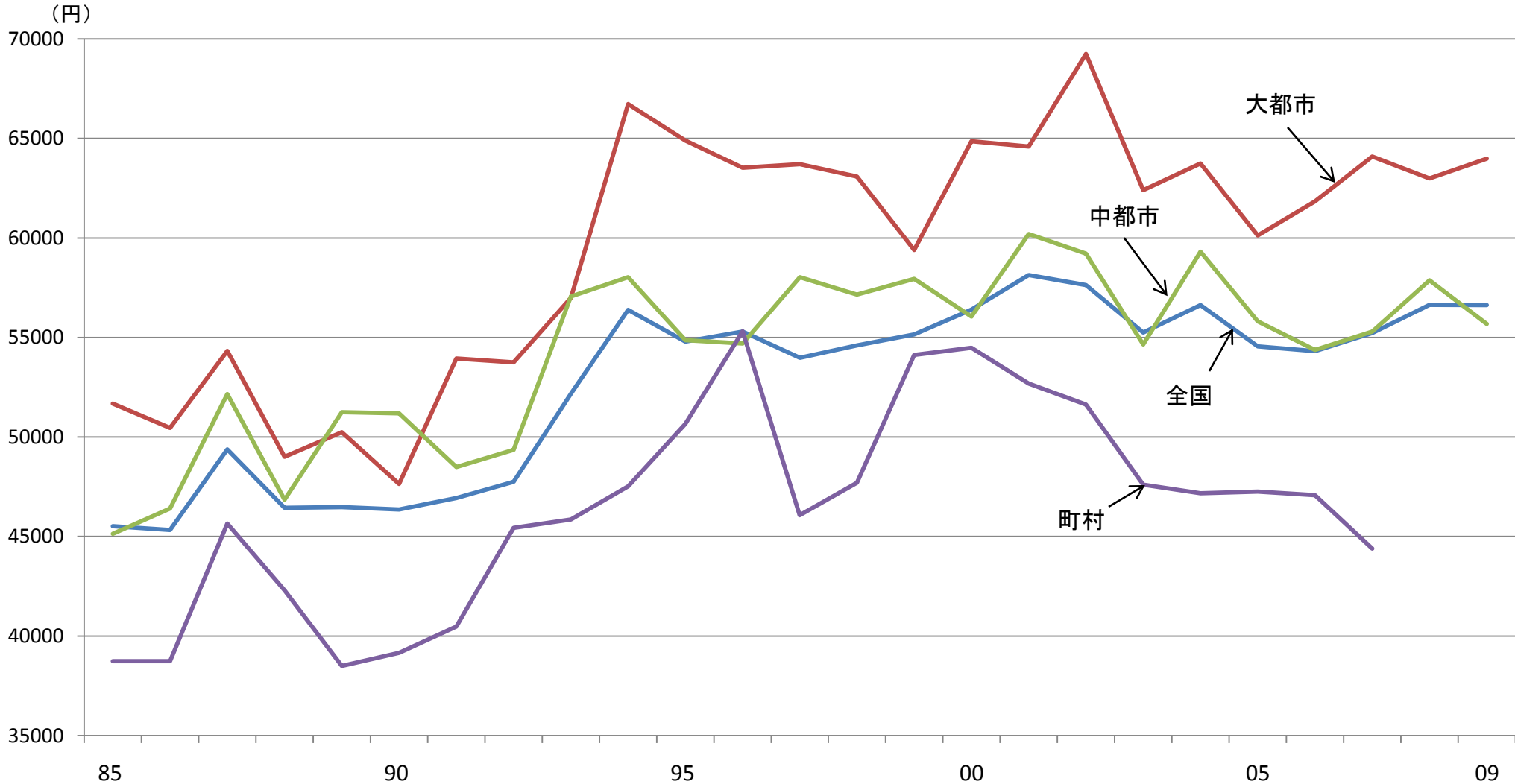
※技術系人材を採用する立場から、大学・大学院(理系学部、学科、専攻)に対して人材育成の点で何を期待するか、520社に質問(3つまで選択)



(資料出所)
企業の求める人材像についてのアンケート結果
(日本経団連, 2004年)

住居関係費支出の推移

○ 90年以降、大都市を中心に住居関係費の支出が増加しており、家計の負担が増大していることがうかがえる。



(資料出所)総務省「家計調査」、「消費者物価指数」

(注) 1. 二人以上の世帯のうち勤労者世帯。1999年以前は、農林漁家世帯を除く。

2. 数値は、1世帯当たり1か月間の支出の実数(円)を消費者物価指数で除したもの。

3. 住居関係費は、「住居」と「土地家屋借金返済」(住宅ローン返済額)を合計して算出。

4. 「大都市」とは、政令指定都市及び東京都区部を指す。「中都市」とは、大都市を除く人口15万以上の市を指す。

(年)